



3・5県春闘決起集会を開催

大幅賃上げ・底上げで

誰もが希望をもてる社会を実現するために

岡山県春闘共闘委員会は、
3月5日10時より、3・5

春闘決起集会をwebにて、
開催した。

県労会議西崎議長の開会
あいさつで始まり、「最賃

春闘山場の闘いに向けてのアピール

私たちの春闘開始直後、ロシアによるウクライナへの軍事侵略が起きました。攻撃に先立ちプーチン大統領は、ロシアが界最大の核保有国であることを強調し、威嚇する姿勢をしめすなど、決して容認することはできません。私たちはロシアによる軍事侵攻を断固糾弾します。

こうした国際情勢を利用し、自民党政権や維新の会は日本の核保有を容認やさらなる軍備拡張を主張するなど改憲に向けた世論操作が行われています。ロシアのように政府が他国への侵略行為に及ぶことの歯止めが憲法9条です。憲法を守り・活かすの声を大きく上げていくときです。

コロナ禍に加えこうした緊迫した国際情勢の中、今年の春闘は3月9日集中回答日、3月10日統一行動日に山場を迎えます。ケアワーカーの処遇改善と最低賃金全国一律1,500円を実現するために、当事者が声を上げ、現場の労働者の力を結集して要求実現を勝ちとる春闘とすることを呼びかけます。

新聞各紙は「賃上げが確実に進む必要がある」と報道し、財界でさえも「ベースアップの実施を含めた、賃金引き上げが望まれる」と述べるに至りました。すべての労働者・国民の願いである大幅賃上げを実現するために労働組合闘いへの期待は高まっています。

これまで、財界・政治による春闘分断攻撃によって、労働組合による要求行動は弱まり、賃金下落を許してきました。しかし、賃金の大幅引き上げが国民全体の理解として広がっている今こそ、産別統一闘争・地域統一闘争を強めて国民春闘を再構築するときです。

使用者側からは、「儲かっていないから」「会社がつぶれては元も子もない」「賃上げには生産性向上が必要」「コロナだから」と賃上げに抵抗する声が上がっています。その時に、「労働者が元気に生活できなければいい仕事はできない」と現場の労働者が自ら声をあげ、行動することが春闘勝利につながります。

長らくコロナ禍によって従来通りの春闘を展開することは難です。しかし、仕方がないと諦めるのではなく、ストライキを構え賃上げが実現されるまで毅然と春闘を闘いぬきましょう。

大幅賃上げ・底上げで誰もが希望をもてる社会を実現するために奮闘することを呼びかけます。

2022年3月5日

岡山県労働組合会議・岡山県春闘共闘委員会

学習動画」、弓田事務局長の情勢報告、県商連の小原氏の特別報告、そして、労組発言では、生協労組・医労連・自治労連・高教組・山陽新聞労組・国労が発言した。

国労からは三宅地本副委員長が「国労は6,000円を基本とするベースアップを統一要求とし、2月14日に申し入れ、交渉は大変厳しい状況にあります。

私たちは3月10日にJR西日本社前で総行動を行い、3月17日の回答指定日に向けて、闘いを強化していきます。

また、JR西日本が進める『駅の無人化』『列車の減便』に反対した取り組みを地域で展開しています。沿線自治体へ『足』を運ぶなかで、自治体と意見交換を行い、切実な要求を取り上げて、会社に対して交渉を行っています。

一方で、JR西日本の長谷川社長は、不採算路線を見直すとして、『輸送密度』が2000人以下の路線がその対象になり、地元との議論を深めていくことを明らかにしています。国鉄から『分割・民営化』行つた際、

政府は『ローカル線は守る』と約束したのは『ウソ』だったのか。

地方ローカル線は、地域住民の通勤・通学・高齢者の通院といった日常生活や、経済活動の『足』として重要な交通手段です。現在の『鉄道事業法』では、一年前に届け出すれば、路線『廃止』にできる。以前の関係自治体の『同意』を前提とした『許可制』に制度を戻し、地域の実情が最大限尊重され、反映されるべきであるとして国労は、『国土交通省』に対して要請を行っているところです。

最後に、私たちは、22春闘で、職場に『必要な社員』を配置して、利用しやすい『列車ダイヤ』にすることで、JR利用者、障害のある利用者の、沿線住民の皆さんの『安全・安心』を第一に運動をすすめていきます。22春闘を取り組むなかで、国労組織の組織拡大に繋がるよう全力で闘うことを表明し、国労からの決意表明とします。」と発言した。

その後、春闘山場の闘いに向けてのアピールを読み上げ、団結ガンバローで終了した。